

## 世における聖霊の働き

### 1A 世に誤りを認められる方 ヨハネ 16:8

1B 良心に訴える聖霊 創世 6:13

2B イエス・キリストの証し ヨハネ 16:9-11

1C 罪について

2C 義について

3C 裁きについて

### 2A 悪を引き止める方 2テサロニケ 2:7

1B 反キリストの出現

1C 悪魔に引き渡された世

2C キリストの血による代価

3C 霊の戦い

2B 反キリストの支配

1C 世界に及ぶ支配権

2C 不法の秘密

## 本文

私たちは、信者の内における聖霊の働きを三回に渡って学んでいきました。初めは、イエスの御言葉を悟り、思い起こさせる働き、次にキリストの似姿に私たちを変えてくださる働き、そして前回は、祈りの生活を助けてくださる働きと、この世から私たちが贖い出されるまで証印として、また保証として守ってくださる働きを見ました。

こうして信者の内に働かれる聖霊をじっくりと見てきましたが、聖霊は信者の内に働かれるだけでなく、この世界に働いておられます。イエス・キリストを信じない、反抗している世界の中でも働いておられます。イエス様は、私たちはこの世にあって患難があり、それは私たちがもはやこの世ではなく、イエス様に属しているからだと言われました。この世と信者との関係の中で、聖霊が力強く、主権をもって働いておられます。

### 1A 世に誤りを認められる方 ヨハネ 16:8

今日もいろいろな聖書箇所を引用しますが、主なものは二つあります。一つ目は、ヨハネ 16 章 8-11 節です。「8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。10 また、義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」世に誤りを認められる働きというものがあ

## 1B 良心に訴える聖霊 創世 6:13

聖書を見れば、創世の始めから聖霊がおられたことが書かれています。「地は形がなく、何もなかった。やみが深い水の上であり、神の霊は水の上を動いていた。(1:2)」したがって初めから世界に聖霊が働いておられましたが、人々の中に悪が増大して、その心の思い計らいがいつも悪いことに傾くようになった時に、主がノアに対してこう言われました。「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。(6:3)」この「留まる」ということばは、「争う」であるとか「奮闘する」と訳すこともできます。つまり、主が人々の間で、「これはいけない、間違っている」と言われてその悪いことに対して対抗される時が、永久に続く訳ではないということをお話しておられます。事実、それが百二十年続きました。ノアは、神を畏れかきこみつつ、その時代の人々に義について、裁きについて宣べ伝えました。けれども、誰も聞き入ることがなかったのです。神は、その人々を水によって裁かれたのです。洪水によって箱舟に乗った八人の他は死に絶えてしまいました。

主は、今も良心に対して語りかけておられます。不信者であっても、神がおられることを良心によって知っているのです。「ローマ 2:14-16」律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じる行ないをするばあいは、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。彼らはこのようにして、律法の命じる行ないが彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心もいっしょになってあかしし、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。 ・私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたことをさばかれる日に、行なわれるのです。」

私たちは、この場面をひっきりなしに見ています。ちょうど昨日、私はオウム真理教の土谷正実死刑囚についての動画を見ていましたが、洗脳されていた、マインド・コントロールされていたという話が続いていました。そこでテレビ番組の人が、「けれども、人を殺してはならないという境界線をどうやって越えたのか。」というようなことを話していました。不信者の人でも、人を殺してはいけないということを知っているのです。しかも、動物を殺すこと以上になぜ人はいけないのか？これは、神の聖霊がすべての人の良心に人の命を取ってはいけないという信号を送っておられるからです。興味深いのは、無神論者の主張です。彼らはしつこく、宗教批判、特にキリスト教批判をします。けれどもある人が言ったように、「無神論は、キリスト教と共に生まれてきた。」ということなのです。もし神が本当にいないのであれば、放っておけば良いのです。あそこまで執着して神についての批判をしているのを見ると、神がいることを前提にしないと批判できないのです。無神論が、むしろ神の聖霊が彼らに働きかけておられるのを見ることが出来ます。

人は、こうした聖霊の働きに逆らうことができます。ステパノが議会にいるユダヤ人に、「あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。(使徒 7:51)」と指弾しました。復活のイエスは、キリスト者を迫害しているパウロに対して、「とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。(使徒 26:14)」と言われました。パウロが迫害していたのは、そのステパノの説

教で聖霊が彼の心に語りかけておられたからに他なりません。このようにして、聖霊は世に誤りを認めさせる働きを行われます。パウロのように、聖霊によってへりくだりと悔い改めに導かれるか、あるいはその聖霊の働きに抵抗して、神の裁きを受けるかのどちらかになります。

## 2B イエス・キリストの証し ヨハネ 16:9-11

イエス様は、世に誤りを認めさせる聖霊の働きについて、具体的に、「罪について」「義について」「裁きについて」その誤りが何であるかを語られました。すべて、イエス・キリストについての証言、特に十字架につけられたキリストの証言であることが分かります。

## 1C 罪について

「罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」と主は言われます。イエスという名が、「ヤハウエは救いである」という意味で、この方が救いである、この方の名に救いがあり、他にはないということです。この方が律法と預言者の成就であり、全てであることを聖霊が証しておられます。

この証しを拒む者が聖霊を冒瀆する罪です。「だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、聖霊に逆らう冒瀆は赦されません。また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。(マタイ 12:31-32)」人の子、キリストに対する冒瀆でも赦されるのに、なぜ聖霊に対する冒瀆は赦されないのか？それは、罪の赦しを得るために、神がこの終わりの時に最終的に、究極的に備えられたのが、ご自分の御子による、その流された血による救いだからです。

旧約の時代から、神は人を罪から贖われるために動物のいけにえによって、罪の赦しの備えを与えられました。けれどもイスラエルは、その動物のいけにえでさえ、それを捧げながら悪を行なうという過ちを犯しました。そこで、神はご自分の御子の肉体をもって、それをいけにえとして用意されたのです。このことによって、これまで犯された一切の罪をご自分の御子の上に置き、それで一切合財、罪の問題を処理することにお決めになりました。これが最後の備え、ただ一度の、永遠の救いであることを聖霊が証ししてくださるのです。そこでヘブル書の著者は、キリストによる罪の贖いを侮る者は、恵みの御霊を侮ることなのだと話しています。「まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。(10:29)」

ですから、「罪について、世に誤りを認めさせる」と言いますと、不品行を犯したであるとか、ねたみを持ったであるとか、そのような道徳的なことであると私たちは思っていますが、イエス様は、ご自身を認めさせる働きを聖霊が行われることを話しておられます。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばか

れない。(ヨハネ 3:17-18)」しかし、それでも救い主のところに来ない人々がいることをイエス様は教えられます。それは光よりも闇を愛したからだと言われます。「そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。(3:19-20)」イエスを自分の救い主、キリストとして受け入れるためには、自分の罪、自分の闇が明らかにされます。この中に留まりたい、罪の生活を愛したいというのであれば、キリストのところに来ないです。

## 2C 義について

そして世に聖霊が誤りを認めさせることについて、「義について」と主は言われます。それは、「わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。」ということです。これは、イエス様が復活されてから、四十日経って後にオリブ山から天に引き上げられるその出来事を指しています。けれども、その昇天と義についての誤りというのはどう関係しているのでしょうか？それは、「天の父が受け入れられるのは、イエス・キリストのような正しさがなければいけない。」ということでもあります。

天というものを、私たちは軽く見えています。「おらは死んじまっただ、おらは死んじまっただ・・・」という歌がありますね。「天国は良いとこ、一度はおいでよ、酒はうまいし、姉ちゃんはきれいだ。」という歌詞があります。私は馬鹿にしていたのですが、なんとイスラム教のパラダイスは、乙女をはべらせる報酬がコーランの中に書かれています！<sup>1</sup>いいえ、天は神ご自身が御座をもっておられるところです。そこは完全なところであり、完全にされた者でなければ入ることのできないところです。預言者イザヤが、天にある神の御座の幻を見て、「ああ、私にわざわいが来る。(6:5)」と叫んだのでした。ですから、天の御国の義についてイエス様が語られている時に、「ですから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。(マタイ 5:48)」と言われたのです。

人は正しくなければ神の国に入ることができません(1コリント 6:9)。ですから、気軽に、死んだ人のことを「あの人は天国にいる」と言うてはいけません。イエス様は、ご自分が来られたのは律法と預言者を成就するためなのだ、と言われました(マタイ 5:17)。イエス様は神の義の体現であります。そして、「まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。(5:20)」と言われるのです。当時、パリサイ派や律法学者こそが神の義を体現しているとユダヤ人は誰もが思っていました。それに優らないといけないというのです。そしてイエス様は、殺してはならない、姦淫してならない、誓ってはならないという戒めについて、それが外側の行ない以上に内側の心の姿勢を取り扱っていることを語られました。そして敵については、隣人を愛するという戒めから、敵を愛しなさいと命じられたのです。これが、神が受け入れられる天における正しさであると言わ

---

<sup>1</sup>[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9B%BD\\_\(%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%A0\)#cite\\_note-1](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9B%BD_(%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%A0)#cite_note-1)

れます。

「では、そんなことを言ったら、誰も天国に入れないではないか。」と言われると思います。全く、その通りです。自分が何とかして、自分が正しい行いをして入ろうと考えたら、その考えを全く粉碎されるのがイエス様なのです。福音書を読んで、この教えはすばらしいと言ってそれを行なうことだけに注目するなら、その人はイエス様の言葉をきちんと読んでいません。イエス様は、「金持ちが神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るより難しい。」と言われました。全く入ることはできない、閉じられた門なのです。

しかし、イエス様は「狭い門から入りなさい。」と言われました。自分が全く到達することのできない義であります。神の義を完成された方が唯一おられるのです。その生涯において、イエスは律法を守り行いました。神を愛し、隣人を愛して、その律法の一点一画ももらさずに守られました。そしてその死において、神の義を全うされました。律法に違反する者は死ななければいけません。その律法の要求を、私たちに代わって満たしてくださったのです。そして、キリストはよみがえられました。したがって、神の義がキリストにあつて私たちに成就しています。キリストが内におられるので、神はもはや私たちを見るのではなく、キリストの内にいる私たちを見ておられるのです。

そしてこのキリストが内に生きておられるなら、自分ではなく、キリストが生きてくださるので、これらの完全な者になりなさいという召しに応答することが、聖霊の力によってできるのです。だから、イエスが唯一の、天に入るための義であることを聖霊が示します。何とかして天国に入れるのだという思いを、聖霊は打ち砕いてくださいます。

### 3C 裁きについて

そして、「さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」とあります。裁きといえば、聖霊によって地獄が示されるであるとか、地上に下る神の怒り、大患難のことかと思うのですが、イエス様は違うことを話されているようです。「この世を支配する者」であります。そうです、彼はサタンのことです。サタンは、アダムが罪を犯した時以来、この世において支配者となっています。コリント第二 2 章 4 節に、「この世の神」とあります。そして使徒ヨハネは、「私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。(1ヨハネ 5:19)」と言いました。

主は、この世界を造られた時に、「彼らに地を支配させよう。(創世 1:26)」と人を造られた目的を述べられました。人は神の中に生き、神に拠り頼み、神の中で万物を支配するように造られました。ところが、神のようになろうとしておるべき領域から追放されたサタンが、蛇によってエバを惑わし、アダムをそそのかして罪を犯させました。アダムがサタンの言うことを聞くことによって、この世界がアダムからサタンに委譲したのです。しかし神は、この出来事が起こった時に蛇に対して呪いを宣言しました。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。(創世 3:15)」したがって、

女の子孫であるキリストが、蛇の子孫の頭を砕く約束を与えてくださったのです。

それは、キリストがご自身の体を神へのいけにえとして捧げ、その血を流された時であります。悪魔が一度、その十字架への道なしにその支配権をイエスに委譲させようと誘った時があります。「今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」(マタイ 4:8-9)」イエスは悪魔に対して、その支配権があることを否定されませんでした。事実、悪魔が世に対して支配する力を持っていたのです。そしてその時にその申し出を受け入れていれば、確かにその力を持っていたのかもしれませんが。けれども、主のみを礼拝せよという御言葉を引用して、拒まれたのです。イエス様は、「多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来た(マルコ 10:45)」と言われました。その尊い血が、金銀よりも高価な代価となり、この世界を神の元に戻す力となったのです。

ですから、この世を支配する者が裁かれたのは、キリストが十字架に付けられた時です。「あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。(コロサイ 2:13-14)」私たちの罪を、悪魔は責め立てていました。そして私たちを罪とその咎の虜としていました。しかし、キリストがその罪をすべて肉体で引き受けてくださったので、その肉体においてその債務証書を無効としてくださったのです。そしてイエスは甦られ、その勝利を宣言してくださいました。

ゆえに、悪魔はもはや、私たちの魂と体に対して何ら力を持っていません。攻撃してきても、私たちの内におられる方は、この悪い者よりも力があるのです。「子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。(1ヨハネ 4:4)」したがって、私たちは勝利者です。悪魔は、私たちに不法に行使している力によってのみ攻撃してきますが、私たちを捕えることはできません。私たちは罪の力が解放されています。このことを聖霊が証ししてくださいます。

## **2A 悪を引き止める方 2テサロニケ 2:7**

こうして聖霊は、世に過ちを認めてくださる働きをしておられます。次に、聖霊のもう一つの世における働きを見ましょう。それは、「不法の秘密を引き止めておられる方」ということです。テサロニケ第二 2 章 7 節を読みます。「不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。」

### **1B 反キリストの出現**

この引き止めるものとは何か、文脈から判断してみましょう。「3 だれにも、どのようにも、だまさ

れないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。5 私がまだあなたがたのところに行ったとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか。6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。8 その時になると、不法の人が現われますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、10 また、滅びる人たちに對するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。」

使徒パウロは、テサロニケの人たちに今は神の怒りの時、患難時代ではないことを教えています。今、すでに神の怒りを受けていると教えている者がいたからです。けれども、そうならないことを話しています。初めに起こらなければいけないのは、「背教」です。パウロはテモテ第一 4 章 1 節で、「後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」と教えています。神の裁きは、その家から始まるとペテロは第一の手紙で話します。

そして「不法の人」または「滅びの子」が現れる、と言っています。ここに「主の日」とありますが、これはテサロニケ第一 5 章にあるように、神が地上に怒りを下される日であり、旧約時代の預言者が何度も警告していた、地上における暗黒の日です。その日が、不法の人あるいは滅びの子によって現われるというのです。それが、「自分を高く上げて、神の宮の中に座を設けて、自分こそ神であると宣言する」ことによって現われるとあります。

このことを話しているのは、預言者ダニエルです。9 章 27 節でこうあります。「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現われる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」一週というのは、一日を一年間と数えているので七年間です。その後半部分の半週、すなわち後半の三年半の間、いけにえを捧げ物をやめさせ、荒らす忌むべきことを行います。このことをイエス様が、オリーブの山で弟子たちに語られました。「マタイ 24:15-21 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。」イスラエルにおいて、岩のドームのある神殿の丘に、神殿が再建されることとなります。それを行なうのが、ここに出てくる不法の人、滅びの子です。ヨハネ第

一2章では、「反キリスト」とも呼ばれています。彼が、最後の七年間の半ばに自分の正体を現し、これまで地上で起こった最も恐ろしいことよりも、恐ろしいことを行なうようになります。

しかし、今読んだように、引き止めるものがあるということです。そしてその引き止めるものが取り除かれたら反キリストの正体が現れるようになります。けれども、今、不法の秘密は働いています。まだ明らかにされていない形で、働いています。反キリストは現れていませんが、その霊は働いているのです。しかし、引き止めているので全開していないのです。けれども、取り除かれたら不思議や徴をもって人々を惑わしますが、最後は再臨のキリストご自身によって滅ぼされる、ということです。

### 1C 悪魔に引き渡された世

悪魔は、偽りの父と呼ばれていますが、その始まりも偽りによって始まり、それで彼はこの世の神となりました。エバに、「あなたは賢くなり、神のようになれる」と善悪の知識の木から実を取って食べるように唆しました。そして、この世がサタンの物となりましたが、しかしキリストが十字架の上で血によって代価を支払い、この地は神のものとなったのです。黙示録 5 章を開いてみましょう。「5:2-7 また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか。」と言っているのを見た。しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。巻き物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」さらに私は、御座…そこには、四つの生き物がいる。…と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があった。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である。小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。」

この巻物とは、土地権利証書です。その土地とは全世界のことです。土地の権利証書を開くことのできる権利を持っている者は誰なのか？と尋ねても、だれも開くことができず、ヨハネはむせび泣きました。なぜなら、これでは罪によって汚れ、呪われてしまった世界がそのままになってしまうと思ったからです。人間の歴史を通じて、政治によって、哲学によって、教育によって、また富によってこの世界を贖おうとしてきましたが、できませんでした。そして個人の人生においても、自分の人生をあるべき姿に取り戻そうとしても、もがけばもがくほど網に絡まった鳥のようになっています。

### 2C キリストの血による代価

しかし、ここを見るように「ほふられたと見える小羊」がいます。そうです、十字架で罪のいけにえとして死なれたけれども、よみがえられたキリストです。この方がその血の代価によって、土地権利書を開く権利を持っておられるのです。それで天において大歓声が起こります。5 章 9 節では、すでに天に引き上げられている教会がこのように新しい歌をうたっています。「あなたは、巻き物を



受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。(9-10 節)」それから 6 章で小羊が、この巻物の封印を一つ一つ開きます。それは七つの封印で閉じられていましたが、一つずつ開かれるのです。するとあらゆる災いがこの地上に下ります。そして最終的には、キリストご自身が再臨されて、齒向かう者たちを滅ぼされて、オリーブ山に立ち、エルサレムから世界を統治されます。神の国が始まります。こうして、全世界に対する土地所有権を行使されます。

### 3C 霊の戦い

ところでその七つの封印について、第一の封印は白い馬に乗った者なのですが、それはキリストの到来のように見えるのですが、実は偽者で数々の災いが地上に降りかかるのです。したがって、偽りの父である悪魔は世の終わりに、その終わりが近いことを知って、偽りと惑わしによって人々を欺きます。イエス・キリストの福音を信じなかった者たちが、その偽りに騙されていきます。悪魔はそのために、最後にキリストに代わる人物を立てるのです。偽キリストを立てます。キリストご自身を受け入れない者たちが、偽キリストを受け入れることによって自分と同じ運命をたどるように引きずり込むのです。そして神ご自身も、イエス・キリストの福音を信じない者たちがその裁きにあうように許されるのです。

### 2B 反キリストの支配

#### 1C 世界に及ぶ支配権

先ほど、イエス様が荒野の誘惑にて、悪魔からその支配権を差し出された話を読みました。イエス様は拒まれましたが、偽キリストになる、その男は受け入れます。「黙示 13:1-4 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のものであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と言った。」竜が悪魔です。彼が獣と呼ばれる反キリストに、「自分の力と位と大きな権威」を与えるのです。それで、彼は打たれて死んだかのようにになりましたが、そこから直ります。これはキリストの復活のパロディです。それで人々はキリストではなくこの男をほめたたえ、そして竜、悪魔に対して賛美を捧げるのです。

その後で、彼が行なう活動が次に書いてあります。「13:5-8 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、

民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。」四十二か月間、すなわち三年半の間、やりたい放題行います。その時に神をののしり、天にいる者たちを罵ります。この中に私たち教会もあります。そして、地上では聖徒たちに戦いを挑むとありますが、これは教会が取り除かれた後に、患難時代になおのことイエスを信じる者たちのことです。彼らはこの四十二か月の間は、イエスの御名のゆえに殉教すること以外、選択肢がありません。

そしてこの後で、もう一人の偽預言者が神殿にある獣を拝むようにさせ、また獣の像を造って物を言わせることまでします。そしてこの像を拝まぬ者は殺されます。また、右の手と右の額に数字が埋め込まれ、それがないと売り買いができなくなります。つまり、食べる物が変えなくなり、聖徒たちは飢え死にします。この後の 14 章以降は、こうした獣の国に対して神が憤りの極みをもって憤りを注がれることが書かれています。そして最後に、世界中から集まってきた軍隊どもを、ご自分の口から出てくる剣をもって滅ぼし、獣と偽預言者を生きたまま燃える火の池に投げ込まれるのです。

## 2C 不法の秘密

今、このようなことが起こってはいけません。しかし、テサロニケ第二 2 章には不法の秘密は既に働いている、とパウロは言いました。使徒ヨハネも、これらを「多くの反キリスト」と呼んですでに働いていることを指摘しています。「1ヨハネ 2:18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。」初めの「反キリスト」の言葉の前に、英語でいう the が入っています。そして後の「多くの反キリスト」には存在しません。初めの反キリストが、終わりの日に現われる反キリストですが、その霊を持っている者たちが数多く現われているということです。

彼らはどういう者たちかと言いますと、初め教会にいたけれども離れていったものたちで、イエスがキリストであることを否定する者、この方が神の御子であることを否定して、御父なる神を否定すると言います。「1ヨハネ 4:2-3 人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」したがって、ヨハネはキリスト者たちを励ましています。イエスがキリストであり、神の御子であることを信じることこそ、その信仰が世に打ち勝つ勝利であると話しました(5:4-5)。

私たちは、この信仰告白をもって教会として生きています。パウロはテサロニケ人への手紙第一 4 章において、キリストが来られる時に教会が引き上げられるという啓示を主ご自身から受けました。「1テサロニケ 4:16-17 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生

き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」そして、その後主の日は来ることを教えています。「5:1-3 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日は夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。」けれども、キリストの内にいる者たちは、この災いに合わないこと、免れることを4節以降で教えているのです。そして9節を読みます。「神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。」神の怒り、主の日から救われるためにお定めになってくださいました。それが4章に出てくる、教会の引き上げ、携拳によるものだということです。

したがって私たちは地上にいるということは、まだ患難時代が来ていないということです。反キリストは現れていないということです。その力は初代教会の時から今まであり、そしてその秘密はこれまで以上に強く働いています。その引き止めるものが、教会を通して働いておられる聖霊の働きです。この方が、神が地上に立てておられる教会と、その信仰告白をもってこの世に対して抵抗しておられるのです。

ですから私たちは、目を覚まして、用意していないといけません。キリストの告白ではなく、それ以外の人間的な教えに引き込まれないよう、しっかりと踏みとどまっていなければいけません。この告白をしている者たちは、世にいかなる患難があろうと勝利するのです。そして、世が暗くなればなるほど明るくなるのです。あなたがたは、世の光ですと主は言われました。私たちがキリストだけになる必要がここにあります。聖霊が確かに、イエスがキリストであり、神の御子であるという証言を行われて、それでそれが、反キリストが現われるのを防いでおられるのです。しかし、神の定められる時にその瓶の蓋を取り除かれます。その時に不法の人が現れます。私たちは終わりの日に生きているキリスト者として、聖霊がこのように働いておられることを知って、慎み深くしていきましょう。